

科目名	必修／選択	単位数	学 年	学科
数学Ⅱ	必修	1	1	普通科

科目の概要	・いろいろな式，図形と方程式，の基本的な概念や法則を理解し，事象を数学的に解釈し，数学的に処理する技能を身に付ける。 ・数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことについて論理的に考察する力を養う。 ・座標平面上の図形について，方程式を用いて図形を表現し，図形の性質を考察する力を養う。 ・関数に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力を養う。			
教材名	教科書	数学Ⅱ（数研出版）		
	副教材	4STEP数学Ⅱ＋B＋C（数研出版）		
担当者		武隈 幸司 ・ 倉俣 達一郎 ・ 山本 裕史 ・ 吉野 友昭		
学習到達目標		数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
学習方法		各単元ごとに、以下の要領を基本に、自立的、積極的に予習・授業・復習に取り組む。 ①予 習：教科書を読みどんな内容を勉強するか把握し、理解できないところを確認する。 ②授 業：理解できなかった部分をしっかり聞き、演習する。 ③復 習：傍用問題集で演習し習熟する。 ④テスト：各単元ごとにテストを実施しそれに向けて復習し学習内容を定着する。		
評価基準と評価規準 ルーブリック		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	定期考査 一斉テスト 長期休業明けテスト 授業での取り組み	定期考査 一斉テスト 長期休業明けテスト 授業での取り組み	課題の取り組み状況 授業に対する姿勢 テストに向けての取り組み 自己学習分析
	A	評価方法の目標に照らして、十分満足できる成果を上げた。 評価値：70.0～100.0	評価方法の目標に照らして、十分満足できる成果を上げた。 評価値：70.0～100.0	評価方法の目標に照らして、十分満足できる成果を上げた。 評価値：70.0～100.0
	B	評価方法の目標に照らして、おおむね満足できる成果を上げた。 評価値：30.0～69.9	評価方法の目標に照らして、おおむね満足できる成果を上げた。 評価値：30.0～69.9	評価方法の目標に照らして、おおむね満足できる成果を上げた。 評価値：30.0～69.9
	C	評価方法の目標に照らして、努力を要する。 評価値：0.0～29.9	評価方法の目標に照らして、努力を要する。 評価値：0.0～29.9	評価方法の目標に照らして、努力を要する。 評価値：0.0～29.9

年 間 学 習 計 画

月	章 ・ 単元	学習内容・目標等	時数	備考（テスト・講習等）
1	第 4 章 三角関数 第 1 節 三角関数	1．一般角と弧度法 2．三角関数 3．三角関数の性質 4．三角関数のグラフ 5．三角関数の応用	1 7	冬休み明けテスト
2	第 2 節 等式と不等式の証明	6．加法定理 7．加法定理の応用 8．三角関数の合成	8	後期期末考査
3	第 1 章 式と証明 第 1 節 式と計算	1．3 次式の展開と因数分解 2．二項定理 3．多項式の割り算 4．分数式とその計算 5．恒等式	1 0	